

共同助成(大分県遊技業協同組合)

「すみれ学級『ハレの日』向上プロジェクト2021」事業

コロナ禍の子どもたちのハレの日を祝い、 困窮する家庭や子どもたちをフォローする

飽食の時代と言われる一方、相対的貧困状態にある子ども(5~14歳)が7人に1人いると言われている日本。2015年の統計によれば、大分県は母子家庭約1万世帯、貧困世帯5,800世帯とされている。未来を担う子どもたちの「食べること」を確保し、教育格差が負の連鎖とならないように学習支援に取り組んでいる。



子ども食堂に来ることが楽しく感じてもらえるように、毎月のお誕生日会や季節のイベントなどを企画・実施



子どもたちに「ハレの日」の感動を 体験してもらうためのイベントを実施

大分市に拠点を置く公益財団法人「すみれ学級」は、食事提供・学習支援・居場所づくりを三つの柱として、現在、大分県下で6カ所の子ども食堂を運営している団体である。2016年に大分県内に調剤薬局を展開する株式会社「そうりん」の地域貢献事業として発足したのが始まりで、2018年4月に公益財団法人の認可を受けた。なお、2018年からは生理用品の無償配布も開始している。

同法人では、コロナ禍のなか、密な状態になることを避け、子どもたちとスタッフの安全を守りつつ、子ども食堂に来ることが楽しくて安心できることだと感じてもらいながら、子どもたちにとって「ハレの日」となるように、毎月のお誕生日会

や季節のイベントなどを企画・実施した。同法人は一昨年度もPOSCの助成を受けて活動したが、昨年度も助成事業として採択されたことから、さらにスタッフが中心となってイベントに工夫を凝らすなどした。

しかし、新型コロナウイルスの感染者数増加を受け、2021年9月と2022年1月下旬から3月中旬までは子ども食堂の一時休止を余儀なくされた。その間、学校給食もなく、一人で留守番をする子どもたちのために食材の宅配事業を行った。宅配した食材や日用品は地域のフードバンクから無償で提供していただき、送料を助成金で賄った。宅配に伴って実施したアンケートでは、困窮する家庭から切実な声が続々と寄せられ、事業の必要性を痛感することになった。

子ども食堂の一時休止中に実施した 食品宅配事業に感謝と手応え

活動内容としては、一昨年同様、誕生日会、季節のイベント(ハロウィン、クリスマス会など)が中心で、参加人数はのべ795名であった。また、休止期間中に行った食品宅配は計4回で、のべ122世帯が対象となった。ある子ども食堂では地域のケーキ屋さんとタイアップして、子どものイラストをケーキにする「ケーキプロジェクト」を実施した。いつもは控え目な女子児童のイラストが採用され、みんなでそのケーキを食べるときに嬉しそうにしている姿が印象的だった。食品の宅配では、実施したアンケートに子ども自身が書き込んだ家庭もあり、「母が金曜と土曜にいないので、自分一人でも食べられるものが多く入っていて困らなかった」と書かれていた。保護者からは、「コロナ禍でどこへも行けず、家族で家にこもる生活のため、本当に食費がいつも以上にかかる。子どもたちも何が送られてくるかすごく楽しみにしている」、「食べ盛りの子供たちがいるので本当に

助かる」などの声が寄せられた。

「こんなときだからこそ、『子ども食堂に行けば、月に一度、みんなでささやかなご馳走とデザートを囲める』と楽しんでもらえる存在であり続けたいと考えています。食品宅配の反響はとて大きく、子ども食堂休止中の代替として実施できた意義は大きかったと思います。事業を続けるうえで、一つ一つのケース、一人一人の子どもたちに丁寧に対応することの難しさを感じていますが、『チルドレン・ファースト』な子ども食堂であることが私たちの願いです」と担当者は話す。また、年度末には進級のお祝いとして、助成金を活用して子どもたちに水筒(魔法瓶)をプレゼントしたという。

大分県遊技業協同組合より

子どもの相対的な貧困が問題となっているなか、無料で子ども食堂や学習支援を行う活動に敬意を表したいと思います。



地域のフードバンクから無償で提供してもらい食材や日用品を配布



年度末には進級のお祝いとして、水筒をプレゼント

助成団体:公益財団法人 すみれ学級

<http://sumire-class.jp/>



2年続けて温かなご支援をいただき、ありがとうございました

パチンコ・パチスロ社会貢献機構様の助成で、子ども食堂に彩りと華やぎを加えることができました。ただお腹がいっぱいになればいいというのは現代の価値観ではなく、やはり子どもたちにも喜びと心の余裕が必要だと思えます。そのプラスアルファの経験をみんなで共有することができました。

公益財団法人 すみれ学級
事務局員 伊良部 桃子さん